

森林環境緊急保全対策事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	農林水産部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策6 「やまがた森林ノミクス」の推進						
	目的	本県の豊かな森林資源の県民総参加での利活用と再生を進めるとともに、林業及び木材関連産業の振興を図り、地域の活性化へ結びつける。						
	目標指標(R2)	木材(素材)生産量	60万m ³					
	策定時の実績	36万m ³ (H27)	現状	48.9万m ³ (H29速報値)	主要事業	森林経営の持続性の向上		
事業名	森林環境緊急保全対策事業			担当課・担当	森林ノミクス推進課 森林整備・再造林推進担当			
事業開始年度	平成29年度			事業終了(予定)年度	令和8年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	県民が安心して暮らせるよう、環境保全を重視した緑豊かな森づくりを実施する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<p>○荒廃の恐れのある人工林の間伐や活力が低下している里山林の森林病虫害などによる被害木の伐採などを行う。</p> <p>○森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する</p> <p>○間伐等で発生する低質材を、ラミナ用材やペレット等のバイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。</p> <p>○ナラ枯れ被害木を含むナラ林等を伐採し、チップ材等への活用に併せ、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。</p>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県、市町村実施による事業であるため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	G1 荒廃森林緊急整備事業	491,804	480,758					
	G2 森林資源循環利用促進事業	36,490	39,667					
	G3 広葉樹林健全化促進事業	5,000	1,500					
	G4 森林資源再生事業	19,065	33,532					
計	552,359	555,457	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	1,651						
	繰入金							
	その他特定財源	550,708	555,457					
	一般財源							
	計	552,359	555,457	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	森林整備面積	活動実績	ha	1,090	1,135	-	-	-
		当初見込み	ha	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	森林整備面積	成果実績	ha	1,090	1,135	-	-	-
		目標値	ha	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160
		達成度	%	94%	98%			
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・再造林支援制度推進事業 ・森林施業支援事業 							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

・平成28年度時点で荒廃の恐れのある森林が約120,000haあると推定され、引き続き森林の整備を実施する必要があることから、平成19年度から平成28年度までの10年間の目標値と同じ11,600ha/10年の森林整備面積を目標に設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<p>・未だ多くの荒廃のおそれのある森林があり、引き続き森林整備が必要であることや、県民の意識調査で約8割がやまがた緑環境税の継続に賛成していることから、県民や社会のニーズを反映した重要かつ優先度の高い事業である。</p> <p>・H30年度の達成度は98%で、概ね目標を達成する成果が得られている。</p> <p>・設置された作業道はナラ材の搬出等に活用されている。</p>
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	B	<p>・H30活動実績の達成度は98%で、概ね計画に沿って実施している。</p> <p>・支出先は専門的な知識や技能を有する事業体を選定しており、受益者との負担も適切に実施しており妥当である。</p> <p>・費目、用途は経費として必要なものに限定されている。</p> <p>・事業実施に当たっては効果的な手段、方法等を検討し、低コストに努めた。</p> <p>・事業目的や事業対象となる森林要件等に応じて、他の補助事業と役割を分担している。</p>
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	<p>・一部事業において、民間事業体への委託により実施している。</p>
今後改善の課題	<p>・未だ多くの荒廃のおそれのある人工林や活力の低下している里山林があることから、やまがた緑環境税を活用した継続的な森林整備を進めていく。</p>		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない